

日本山村硝子株式会社
第96期 定時株主総会

事業報告

招集ご通知 25～40ページ

当社の連結業績

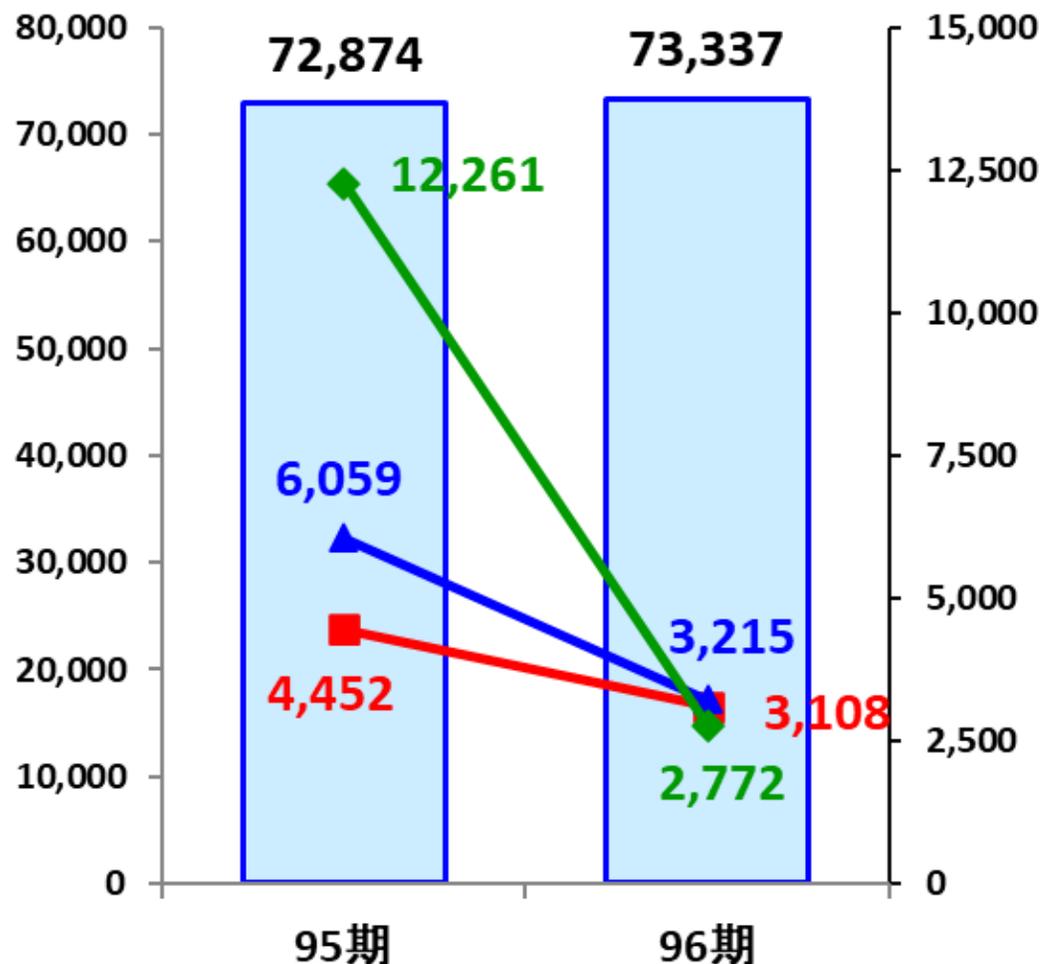
売上高

営業利益

経常利益

親会社株主に帰属する当期純利益

(単位:百万円)



➤ 売上高

ガラスびん関連事業は減収となったものの、他の報告セグメントにおいては増収となり、増収

➤ 営業利益

主にガラスびん関連事業において、出荷量・生産量が減少、燃料・動力価格の高止まりに加え、減価償却費や物流費、労務費等が増加したことにより減益

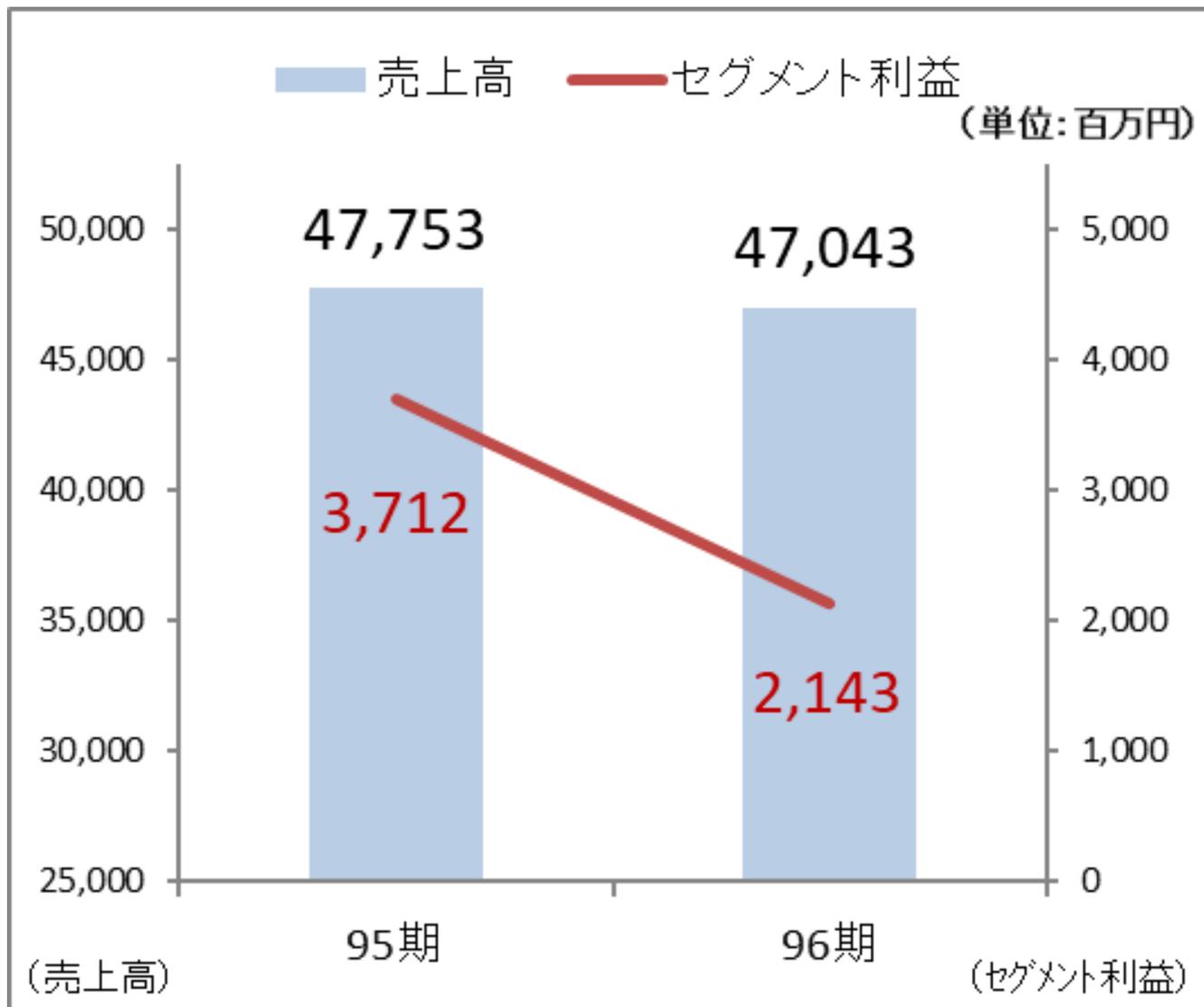
➤ 経常利益

主に持分法による投資利益において、前期に計上した米国の関連会社からの貸付金が全額返済されたことによる利益増加等の特殊要因がないことにより減益

➤ 親会社株主に帰属する当期純利益

主に前期に計上した固定資産売却益や関係会社出資金売却益等の特殊要因がないことにより減益

事業セグメント別の概況 ガラスびん関連事業



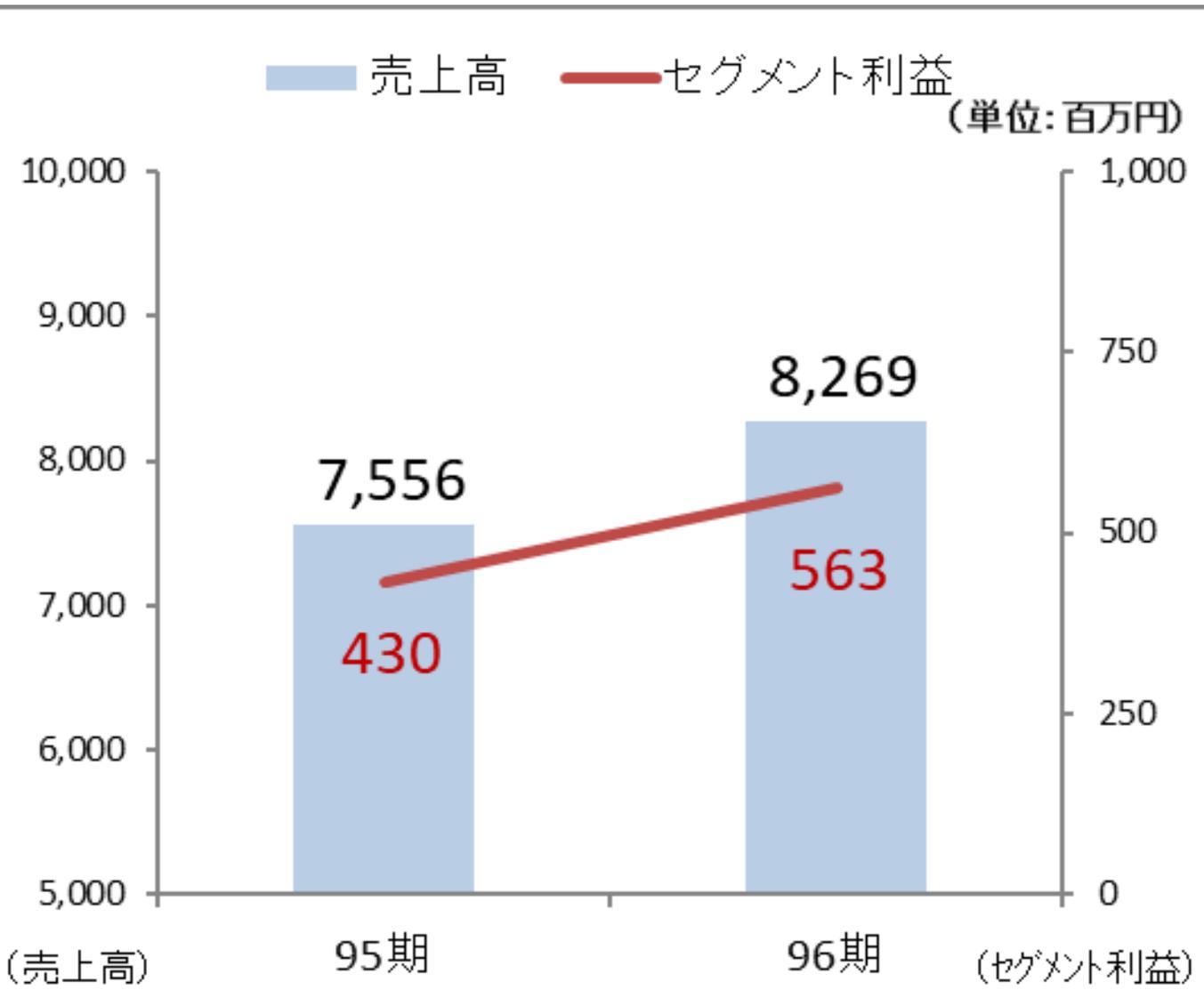
■ 売上高

当社において、価格改定や品種構成の影響で販売単価が上昇したものの、出荷量が減少し、減収

■ セグメント利益

当社における出荷量・生産量の減少、燃料・動力価格の高止まりに加え、減価償却費や物流費、労務費等の増加により減益

事業セグメント別の概況 プラスチック容器関連事業



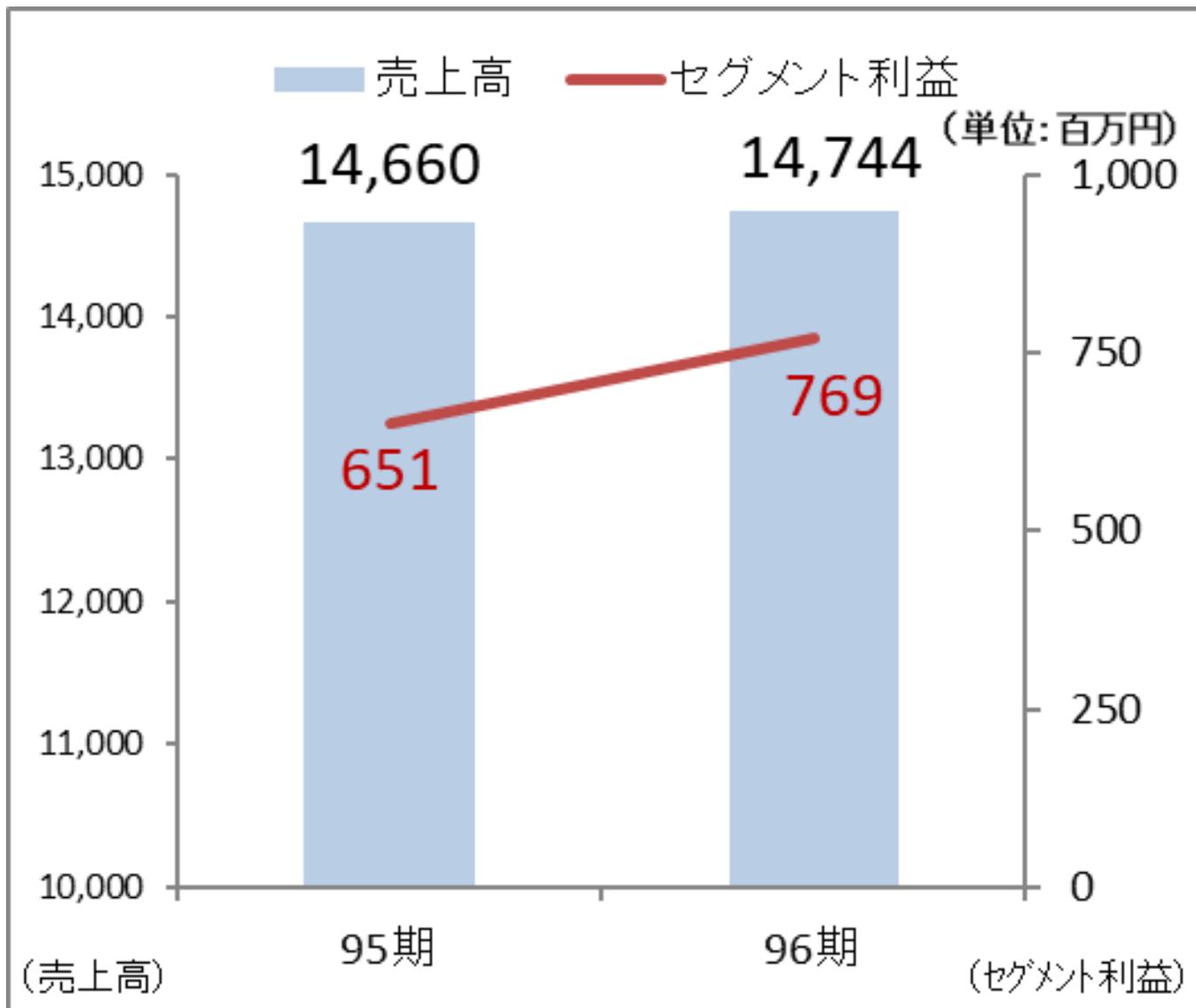
■ 売上高

当社において、飲料用キャップの出荷が増加したことに加え、価格改定により販売単価が上昇したこと、中国の子会社において販売が好調であること等により増収

■ セグメント利益

主に中国の子会社において、販売量が増加したことに伴い生産量増となったこと等により増益

事業セグメント別の概況 物流関連事業



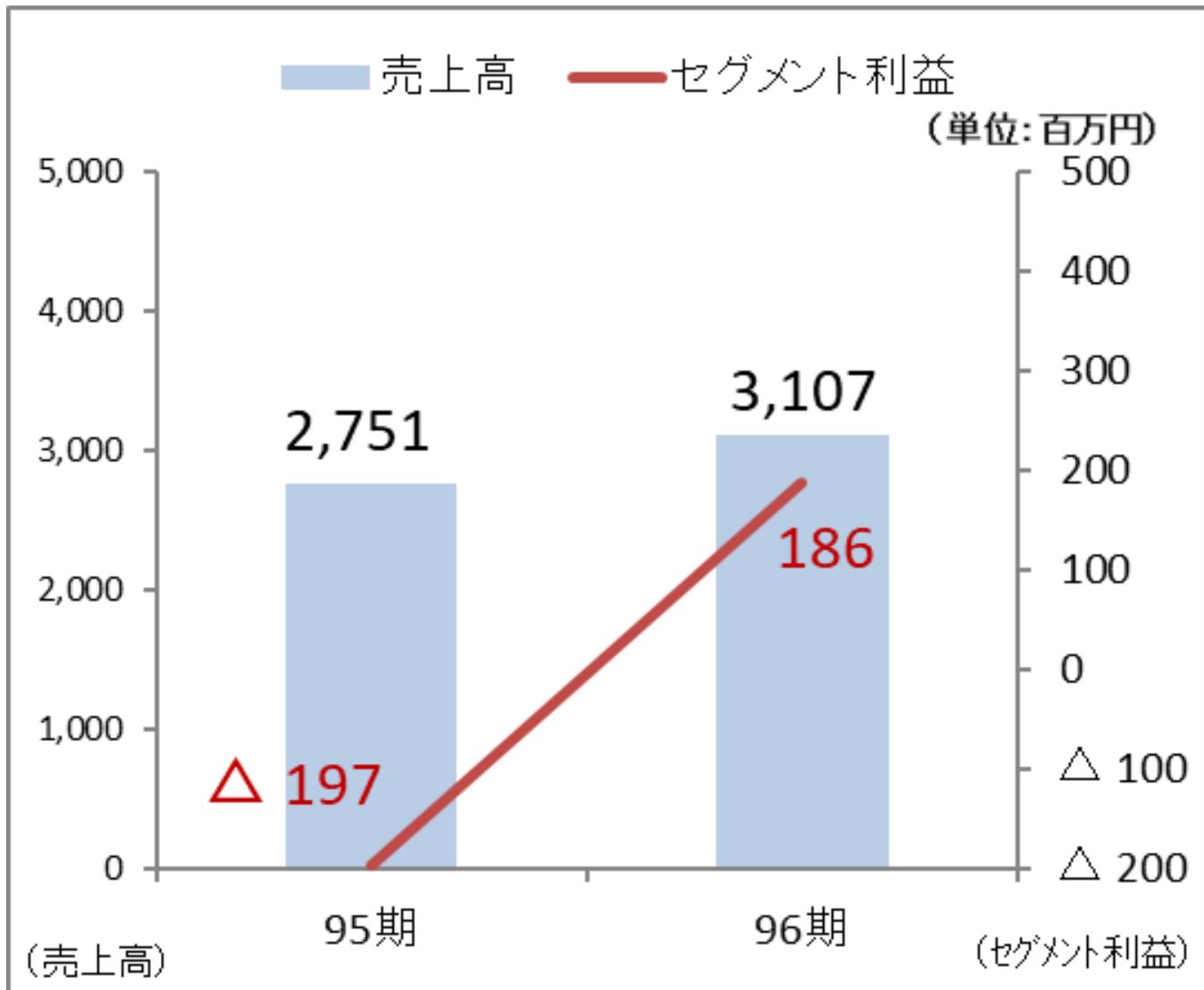
■ 売上高

新規営業所開設等による
取扱い物量の増加により増収

■ セグメント利益

作業・配送効率の改善や
不採算案件の取引条件改定等
により増益

事業セグメント別の概況 ニューガラス関連事業



■ 売上高

当社における電子部品用ガラスの出荷が堅調に推移したことに加え、国内子会社における光通信用キャップ部品の出荷が増加し、増収

■ セグメント利益

国内子会社における出荷や生産量の増加、コスト削減等の損益改善により黒字に転換

中期経営計画の進捗

中期経営計画（95期～97期）

【経常利益】

60億円

特殊要因
利益
19億円¹

32億円

(24/5月計画比+7億円)

39億円

(同+9億円)

原燃料調達価格上昇が
想定よりも低位に推移
ガラスびん製品の価格改定効果

ガラスびん製品の価格改定や持適
会社の増益により計画を上方修正

94期

▲30億円

事業構造改革早期完了

95期

96期

ROE5.0%
達成

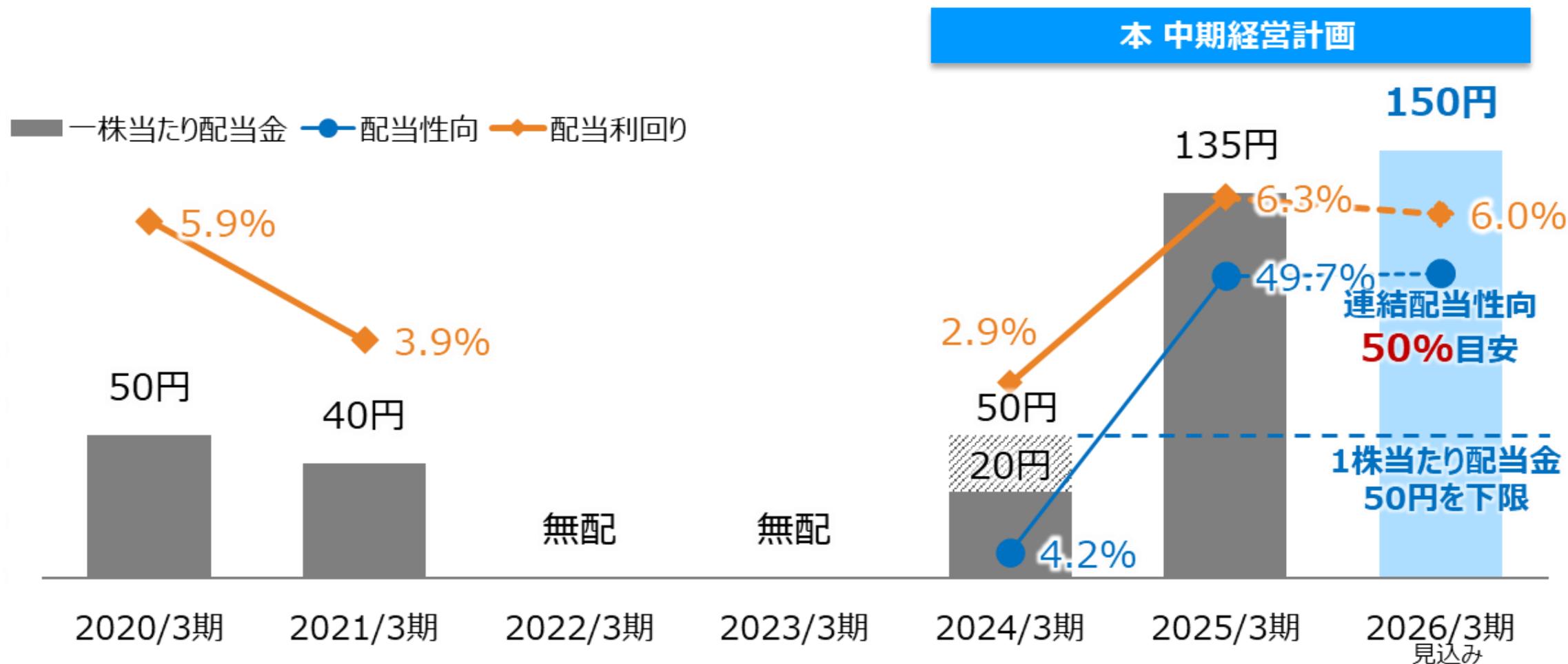
97期計画

ROE5.0%
以上を維持
する見込み

1. 海外関連会社への貸付金全額返済等

株主還元方針

- 連結配当性向**50%**を目安とし、1株当たり配当金**50円**を下限に、利益成長に応じた継続的な配当額増加を目指す方針



- 国内ガラスびん市場は、少子高齢化による人口減少や他素材容器への転換等による需要減が見込まれる
- 原燃料や物流費高騰の影響によるコスト上昇
- 品質確保や安定供給のために必要な溶解窯の更新について、更新費用も上昇しており、更新後は減価償却費の増加が見込まれる



- 変動する需給バランスに対応した最適な製造販売体制を構築
- 生産支援システムや省人化設備の導入拡大等により人材不足対策
- 多様化する市場と環境面のニーズに応えるため、高付加価値品の開発や脱炭素社会に向けた技術開発

- 市場と顧客の動向を注視し、スピーディで効率のよい生産体制を構築
- プラスチック環境問題に対しては環境に配慮した製品の開発
- ペットボトルキャップのリサイクル活動を企業、自治体、学校等とも協力しながら推進
- 原料および各種資材の供給不足や価格変動による製造コストの変動に対して、様々な取り組みにより安定調達やコスト削減を図り、収益力の強化
- 海外においては、子会社や提携先との連携によりアジアでの販売強化

- 幅広い事業範囲で蓄積したノウハウを活かしながら、既存事業拡大と新規顧客の獲得
- 今後の事業拡大に対応するためのコア人材の確保と育成強化
- グループ内の相乗効果による新規業務の受託と輸送ネットワークの構築
- 既存業務の効率化や品質向上の取り組み等により、利益体質の強化

- 当社の主力分野である半導体周辺のエレクトロニクス関連および燃料電池等の環境エネルギー関連や自動車関連においても営業活動強化や生産技術開発に取り組み、グローバルに事業の拡大
- 国内子会社においては、高速通信・半導体・センサーおよび映像用製品の販売拡大による事業拡大

事業報告（当社の概況）：

➡ 招集ご通知25～40ページ、当社ウェブサイト

連結計算書類：

➡ 招集ご通知41～43ページ、当社ウェブサイト

報告事項2．計算書類：

➡ 招集ご通知44～46ページ、当社ウェブサイト

【ガラスびん】水素燃焼によるサステナブルなガラスびんの生産

- 当社、山村製壘所(当社グループ)、日本エア・リキードが共同実施
- 元より環境性に優れた酸素燃焼炉にて、使用する**燃料の一部を水素に置き換え、CO₂排出量削減の可能性をさらに広げる**取り組み
- 通常の方法で生産されたガラスびんと同等の品質を得ることに成功



日本国内で唯一※1の酸素燃焼炉
(山村製壘所) で水素燃焼による
ガラスびんの生産に成功
(※1：2025年6月時点)

【プラスチック】大阪・関西万博「TEAM EXPOパビリオン」参加

- 当社プラスチックカンパニーの取り組みとして、大阪・関西万博「TEAM EXPOパビリオン」へ参加
- 当社が推進するペットボトルキャップのリサイクル活動について展示
- 当社は、ペットボトルキャップを新しく価値のあるモノに再生し、モノを大切に作る社会をつくることを目指す

TEAM
EXPO
2025

 日本山村硝子

- ニューガラスカンパニーが「IATF16949」の認証を取得
 - ※「IATF16949」：
世界の多くの自動車メーカーで、自動車部品の採用基準とされている
- 本認証の取得によってニューガラスカンパニーの製品の品質を高度に保証

今後の電気自動車化によって
市場拡大が見込まれる
自動車関連製品(センサー部品等)
の販売拡大を目指す



- 神戸大学と共同で、頭頸部がん放射線治療に用いる患者固定具「**CustomFix-3D**」を開発

特許取得

CTなどのデータを用いて患者の体形をデータ上で再現
▶ ジャストフィットする固定具を外部の製造工場で作製

解決する課題

＜従来＞ 患者自身を型にして作製する方法が主流

- ・患者に与える苦痛
- ・性能面での問題
- ・現場の医療者への固定具作製に関わる時間ロス など



第1号議案 剰余金の処分の件

招集ご通知 8ページ

第2号議案
**取締役（監査等委員である
取締役を除く。）5名選任の件**

招集ご通知 9～13ページ

第3号議案
監査等委員である取締役
4名選任の件

招集ご通知 14～17ページ

第4号議案
**取締役（監査等委員である
取締役を除く。）の報酬額改定の件**

招集ご通知 19ページ

第5号議案
監査等委員である取締役の
報酬額改定の件

招集ご通知 20ページ

第6号議案
継続的な価格適正化の検討委員会
の設置に関する定款の一部変更

招集ご通知 21～23ページ

質疑応答

議案採決

日本山村硝子株式会社
第96期 定時株主総会